第７回公共施設の整備に関する検討委員会会議録

１．日　時　平成２７年２月１８日（火）午後２時～午後４時
２．場　所　起雲閣　音楽サロン
３．出席者　（委員）花井委員長、原副委員長、小松委員、船橋委員、出口委員、諏訪村委員、杉山委員、藤間委員、須藤委員、中田委員、田中委員　以上１１名
（市側）経営企画部次長、経営企画部総務課長、同施設企画室長
４．会議内容

（１）開会

（事務局）

定刻になりましたので、ただいまより第７回目公共施設の整備に関する検討委員会を開催させて頂きたいと思います。なお本日は内藤委員が欠席となっております。それでは開会にあたりまして、花井委員長からご挨拶をお願いします。

（花井委員長）

こんにちは。残り少なく今日入れて残り２回になりましたけれど、まだまだ議論足りない部分あるかもしれませんが、基本計画を作るということで皆さんの意見頂きたいと思います。傍聴の方々も大変ありがとうございます。それでは始めていきたいと思います。

（事務局）

ありがとうございます。次第に沿いまして、順次会議に入っていきたいと思いますので、進行の方、花井委員長お願いします。

（２）（仮称）熱海フォーラム整備事業基本計画（案）について

（花井委員長）

図書館ということになっておりますが、先日１月２８日にみなさんに集まってもらいまして、時間の事やいろいろなことをお話させて頂きましたけども、説明が途中でしたので、その続きといいますか、図書館の話をもう少しいただきたいと思っております。その前に前回言いそびれた電子図書館事業について私の方から少し説明させて頂きますが、私見であるかもしれませんが、どうしても紙の本なのかデジタルなのか、マスコミに乗せられたそういうことになってしまうのですが、電子事業のサービスということになっていくと、紙とかそういうことではなくて、本を読まなくなった人へどういうサービスをしていくのか。あとは図書館に来れない方々にどうやってサービスするか。２４時間のサービスについてどう考えるかといったときに、電子図書事業というのはそういう視点から考えていくのも良いのではないかと思っています。特に図書館は何時から何時までの運営になるか分かりませんが、例えば２０時まで運営したとして、２０時以降、次の日のオープンまで何もしないでいるのかというと、電子図書サービスは２４時間本を借りて読めるようになる。データとしては買う本ですが、講談社さんのデータを見ますと、１番電子図書のダウンロードの多い時間というのは夜中です。夜中にダウンロードするということは図書館は空いてない時間帯になる。先程言いましたが、図書館に来れない方、どうしても時間があわない方々への電子図書サービスを考えますと、電子図書館事業を見直さなければならない。

もう１つ、今の電子図書サービスに関しては、地域資料を自分たちでデジタル化した場合、それをネットにあげて、それを貸出できるサービスまで今出てきていますので、そういうところを紙がいいとかＩＴがいいというのではなくて、サービスとしてどう電子事業があったらいいのかなというところも、少しみなさんと議論して頂きたいなと思います。それから強いて言えば、図書館のハイブリット化というふうになるのかなと思いますが、それと学校との連携化、図書館の方もいらっしゃらないのでなんとも言えませんが、学校との連携をどう考えていくのかということも、みなさんからもご意見いただきたいなと。またスタッフの研修も含めまして、どのような向上を期待し、どのようなネットワークを持った人がそこで働いてくれることを望んでいるのか、スタッフの資質みたいなものを少し皆さんのイメージでも構いませんので、ご意見を伺えたらと思っています。

（委員）

先月の１月の委員会のときに、夜間営業ということが出ました。いきなり夜間営業ということではなくて、例えば金曜日や土曜日、とりあえず何時間か増やして、毎日ということではなくて、週に１回ぐらいを増やしてみて、例えば半年なり１年間なり見て、それで続けるか、あまり使用者がいないから止めようかとか、決めたりしても良いと思います。夜間に行きたい人もいるかもしれないです。また反対に今度皆さんの行きやすい場所に図書館ができますので、それも１つ考慮かなと思いました。それから子どもたち、あの辺りは幼児も集まる場所が何か所かございます。ですからぜひとも小さなうちから図書に親しむということで、いきいきプラザにしても、その下にあるお子さんの一時預かりのところも声をかけて、図書館利用をどんどん進めた方が良いのではないかと思います。こうしてほしい意見ということも拾うことが必要だということもありました。私は、それは一部の事ではなく、学生でもなく広い層に向かって発信することも大事だと思います。そして１番利用している方に発信するよりも、利用していない方に発信して、そういう意見を伺うことも必要と思います。こういうことをしてほしい図書館。今まではこういうことをしなかったけどしてほしいとか、こういう形になったらいいなというのも、その広い層からアンケートみたいなのとったらと思いました。

（花井委員長）

ありがとうございます。この間、九州のある図書館に行ったとこおろ、やはり実験をされていまして、そこは金曜日だけ、普段は１８時までですが、その時は２０時か２１時ぐらいまでで、実験だとおっしゃっていましたね。今のところかなり続いているみたいで、そういうこともできれば予算もあるかもしれませんが、理想論をいってもいいのかなと思います。

（委員）

もちろん人件費の問題も出てくると思います。それからスタッフの人数にもよると思いますが、週に１回何時間か増やすというのは可能だと思います。やらないで、ただ来ないだろうという考えではなくて、やってみてダメだったらやめるということも決めたてもいいと思います。やらないうちからやっても不安じゃないかというこでも、やっぱり何か月なり１年なりやってみて、それで決めることも必要ではないかなと思います。

（花井委員長）

他にはどうでしょうか。学校のことでも大丈夫ですし、スタッフのことでもいいですし、ハイブリット化についてでもいいし、こういうこともあり得るのではないかみたいな。
（委員）
ハイブリット化というより、今まで熱海の図書館にはないし、なかなかよその図書館に行くことがないので、委員長がおっしゃって、こういうことあるんだよという今の話、全然分からないです。それは欲しいと思ったことが無くて、知らないからだと思いますが。その素晴らしいいろいろなことがある図書館を、住んでいる人が、使っている人の方から声が上がると良いと思います。今おっしゃったようにいくつかのことを私は一度もほしいと思ったことがないので、今よく分からないなという感じですが、確かにあればいいのかもしれませんが、もう１つ上から来るのではなくて、要望があってそれを取り入れるという形になったら、もっといいだろうなと思いました。それからもう１つ開館時間ですが、確か何年か前に時間を長くしたことがあって、利用者が無かったので、やめた経緯もあったはずなので、もう一度試す方がいいかもしれないですが、１回確かやったことがあったと思います。児童室が今１７時で閉まっています。私職場が１７時までなので、図書館１８時まで何とか滑り込めますが、児童室はすでに行かれないです。ですけどホームページから予約ができるので、本を予約して取りに行くことはできます。そうして使わせて頂いていますが、児童室を１８時まであけるっていうのもどうかな、いいのではないか。実際に自分が使ってみて、特に子どもの頃の本、大人も利用しますので２人で座りながら。そういう時には予約をして本を置いておいてもらう。その時には使っていますが、行ってみればもっと自分で見て選べると思いました。
（花井委員長）
児童室の予約法っていうのはネットでできますか。
（委員）
ホームページからできます。
（花井委員長）
ハイブリットの使ってない人からの意見で、委員の意見と同じで使っていない方々にも多く広めてご意見いただければ、すごく出てくると思いますし、ネットで予約できたことがハイブリットって言われていますから、そういう意味でＩＴと今まで貸し出しをしていたアナログ的なものが相まって全部デジタルに行く必要はどこもないと思いますけども、どこか便利なものと気を遣わなくて済むものと、きれいに分かれていながら、どこか交差してというふうになるのがいいのかなと考えていますけども。そういう意見が私の知れる限りの情報として受け止めていただければと思います。
（委員）
もう１つ、司書の役割が必要だと私は思っています。というのは、何かを調べごとをしても相談する人がいない。ベテランで図書館の事よく御存じで、本のあるところのいろいろな知識をお持ちのベテランの司書が必要だと思っています。この間も初島小学校で、小学生にお話会開いてきましたが、昔話をしたときに、図書館の話の中で、普通あんまり使わない態度の言葉、習慣の言葉が出てきたので、昔話はそのまま語ったのですが、後から今話した言葉はこういうものだよ、写真とか説明するものとかあるといいなと思って、そ

の相談しました。私１人では調べられなくて、時間がなかったのもありますが、いくらパソコン上で調べても、私が知りたいものがこの本のどれなのかさっぱりわからなかったので、そういう風に内藤委員に教えていただきましたが、しかし今の図書館は１人しか司書がいないので、教えてくれないときはできないですし、そういう活動を聞く事が出来るとか、調べものをする事が出来るとか、司書の利用の仕方とか、図書館の利用の仕方含めて、利用者が知らない人が多いだろうと思いましたし、経験を踏まえることによって、司書がどんどんベテランになっていくと聞いたことがあるので、そういう面でももちろん利用していくうえで重要な人になると思うので、職員、スタッフは十分な経験を積んだ方がいらっしゃると、私たちも安心して相談したり、教えてもらったりできると思っています。

（花井委員長）

１人というのも大変だなと思うし、またベテランの方、若い方で育っていくということで、その次は市民の方だったりしますので、貴重な意見ありがとうございます。

（委員）

いま司書の問題ですけど、昔文化会館に図書館がございました。そのころからずっと１人でした。その当時も司書１人ではという問題が出たことがありました。ですけど、役所の方では一応市の職員として雇って、そして司書を図書館に回すということで、司書の在籍は１人だから２人は入れないと伝えられたこともあります。以前から１人なんです。確か内藤委員さんが私１人司書ではとても大変だ、在庫整理をするにしても、今度また移転するにあたって在庫整理したりするのに、とても１人だったら大変だという話もしました。私も郷土資料にしてもいろいろな物を整理するのに、やはり１人では無理だと思います。人件費という問題も確かにあると思います。ですけど現在でも５千何百万円の人件費を使っているわけですから、ワンフロアになれば少し人件費削減できれば、司書の方が１人でも多く務められるのではないかと思っています。

（花井委員長）

１人は、行政批判ではないですけど、今回折角なんで増やしていく。それは正職でなくても正職が全員司書だとすればいいですが、臨時職員なりの司書。これは私がいた時のところでも１人の正職と後は４人の臨時職員さんの司書がいましたし、そういうふうにパーツをどのように。ピラミッドではないですけど、何人かやはり。１人の方が文系に強ければ、もう１人は理系に強いとか。本来はそういうふうに、ただ単に役割だけで採用するのではなくて、役割の中の何を得意とするかというところが、サービスの幅になってくるのかなと思いますので、そういう基準で人事が行われたらそういうことになると考えます。

（委員）

先程おっしゃっていた電子図書サービスですか。おうちにいてもダウンロードできるっていう、それもう少し詳しく聞きたいなと。よく分からない。

（花井委員長）

図書館が電子図書、電子化された本を電子図書サービスをしているところから購入しますね。購入した本屋さんから本を購入しますね。それと一緒で電子図書を販売しているところから本を買います。そうすると今度は電子図書館、要はホームページみたいなものを立ち上げて、今度はサービス業者がいますから、そこと契約するわけですね。契約してい

るところから、本を買うということになります。例えば今日はハリーポッターを電子図書館のサービスで読みたいなと思うと、それをクリックしてダウンロードします。そうすると貸し出しが２週間とすると２週間以内であればいつでも見れます。アイフォンとかタブレットで見ることが出来る。ただ２週間経ったらそこでブロックがかかるので、本が見れないようになる。返却に出かける必要は無いです。自然的に見えなくなります。先程言ったように、情報弱者と言われている図書館に来れない方々が、お家で見ることもできるし、夜中でもどうにかしてっていうことになれば読む事が出来る。ただ良いことばかりではなくて、電子図書がそろっているかというとまだまだ揃っていないし、日本の出版社の権利の問題もありますから、その先どういうふうに全部の本が電子図書になっていくというのは考えられないですが、どちらかというと郷土資料、例えばたくさん温泉の資料がありますから、郷土資料をデジタル化してアップして、それを明記して、今度はいろいろな人に見ていただく事が出来るということは利点があるかなというところと、今後を見据えた場合、どうしても電子図書サービスは増えて来ます。海外を見ても増えて来るので、そこは無視しては通れないのかなとなります。勉強したあげく使わないということはありだと思いますが。ある程度勉強は必要になるのではないかと思います。今最大と言われているアメリカのシステムがあるのですが、日本にもいくつかシステムあります。大きいのはアメリカのシステムで、世界中の３万館の図書館が使っているっていうリサーチ結果があります。それはやはり日本はあまりのっていないですが、今度それが日本に入ってきますので、日本をそれをどうのせていくか。それは水面下ではいろいろば出版社さんと交渉していると聞いてますので、もう動き出しています。やってみようと思うなら、やってみるべきではないかなと思います。その提案ではないですが、情報としては新しく作る図書館はそこは見据えて議論する必要はあるかなと。

アメリカでやるようなのはコミックも入ってますし、逆に言えば、今はご自宅にいて、ということになりましたけれど、今度はもしかしたら草刈りの道具が借りたい。草刈りするのにすごく大きな道具で自分で買うのはもったいないから、図書館貸し出してるなっていう。一つの電子図書の中に草刈り機ってあって、それは取りにいかないといけないですけども、情報を見る事が出来る、草刈り貸します、後はどんなものでも何かを貸します。インフォメーションとして使えるようになるということは利点としてはあります。おもちゃ貸し出しているところもありますし、ヨーロッパは人も貸出していますから。人貸し出しますというように、そういうのもあるので、貸し出しって言ったらすごく嫌な気がしますが、いろいろな情報と出会う事が出来るというのが電子図書サービスの本だけではなくってという、電子図書サービスの面白さかなと私は思っています。

（委員）

今のデジタルな情報というのは、すごく効率が良くていいと思います。世の中が割とそういう方向に向かうと、人と人とのつながりがすごく薄れてきてしまうので、新しい場を作るのであれば人と人とのアナログな関係を作れるような工夫をすごく今までに増して仕掛けをしていってほしいなと思います。

（花井委員長）

他にどうでしょうか。デジタルに引っ張られないというのも、良いと思いますけども、

図書館というざくっとした考え方でも、何度かしか議論していませんので、図書館がこうあったらいいなと思うものを、頭の中に浮かぶようなものがあればぜひお願いいたします。
（委員）
　先日フェイスブックの方から、情報が書かれたんですけども、図書館でしゃべれる児童室を開設しましたということで、市のホームページから流してくださって、見てすごくいいなと思いまいた。以前見に行ったことがある函南の知恵の輪館のような子育て支援室と併設とか行き来できるようになっている図書館になっていて、まさにそういう感じのことが始まったんだなと思って、今度出来る図書館にも子育て支援室と附帯してあるような施設があれば、子育て世代にも小さいお子さん連れてきているお母さんたちも、気軽に来てくれるんではないかなと思いました。ただ小さい子だとうるさくするのではないかとかすごく気を使います。ですのでしゃべれるっていう言葉があるだけで、子どもが気軽に来られて、今度できる図書館もそういったものがあると良いなと思いました。ＩＴを活用して２４時間サービスというところで、実際私も仕事をしていて子育てもしていまして、朝からバタバタなんです。朝ご飯作って仕事して帰ってきて、夜ごはん食べさせて、ほっとするのが２２時とか２３時ぐらいになるので、そういったときに、気軽に電子図書で好きな本を見れたらとてもありがたいなと思いました。
（花井委員長）
　もう少しさっきの事に付け加えると、これもリサーチデータなんですけども、こういうタブレットとかアイフォンとかこういうものが普及して、ほとんど本を読まなくなった人はここにいってしまっているというデータがあります。ただ時間軸でみると、本を読んでいる時間がこういうものを触っている時間だろうと言われていて、その使っている内容を見てみると、アンケート調査すると、データを持って来てないのでうろ覚えの部分ですが、要はこの中でやっていることは、テキストを読んでい。、要はメールを見たりラインを見たりとか、テキストのやりとりを見ているということが考えられるだろうと。その中で、タブレット系に失われた時間というのはだいたい分かっています。計算式もあります。それが何時間か忘れましたが、その何時間、本が失われた時間と言いますが、本を失った時間がここにもしあるのならば、本はマスコミで言うような紙とかそういう戦争をさせるのではなくって、本という情報というものをその中に持っていかなければいけないのではないかというのが電子図書関係の人たちが言っていることです。本を読まなくなったから、一生懸命紙の本を誰かの前に積んでいくのではなくて、あなたの生活の本の中に本を入れさせてくださいっていうのが１つの見方です。その中に１つとして電子図書館サービスがこの中でダウンロードできて、そしたら読んでくれる人が数％でも増えるのではないかというようなデータがアメリカ等では入っています。もう１つあるのは、そうなると本が売れないのではないか、紙の本が売れないのではと危惧する人もいますが、これもデータでしかないですが、実はダウンロードが一番多い貸出本の数と、同様に並行して、紙の本も売れていっているという、これも１つの情報としてあります。だから全てが紙と電子だけの戦いでどっちが勝った、売れたというのではなくて、同じように文化として伸びてきているのではないかというところに面白さがあるなと思って、その時に先程言った弱者のためのとか、２４時間とか、そういうのがその上に重なっていけば、ある程度面白いサービス

はできるかなというのは付け加えでしておきます。ただ「入れましょう」と言っているわけではないです。そういう情報が世の中にあるので、それは世界的にそういう流れがあるというときに少し知って頂くのはいいかなと思います。

（委員）

今のことに加えて言わさせてください。以前私が若い頃は音楽の流行りというのはレコードとかＣＤの 売上枚数で表示されていましたが、今はだいたいダウンロード件数で表示されますので、それと同じように図書も売り上げと同時にダウンロード、電子媒体でみるというのは、主流であるのか半々であるのか分かりませんけども多くなってると思います。音楽を私もＣＤを聞いていたときに比べてダウンロードで聞くようになって、圧倒的に音楽に関わる時間が増えています。それと同じように、図書も印刷物でみる時間だけの時とダウンロードして見る時間、両方をみると図書と言ったらいいか、小説とかそういうものですが、関わる時間が圧倒的に増えていると思います。今までは厚い本を持っていなければ通勤時間も見れませんでしたが、今スマホで見られますので、そういう意味で言えば図書館の情勢というよりも、出版業界の期待でしょうか、そういうのの中でも情報化とかそういうものは確実に増えてくると思うので、熱海フォーラム事業基本計画の中ではどこまで各論を言うのか分かりませんが、やはりそういう新しい情報提供事業というのに触れて頂きたいなと思いました。もう１つ委員がおっしゃっていた話せる児童室、私も新聞見たとき今までなかったんだと思うくらいびっくりしたところですが、図書館は本当に静寂でじっくりと本を読む、質のいい空間とその周っていく外側に少しおしゃべりをしたり感動を共有したり、興味ないけど一緒に図書館についてきた子どもが多少騒いでも怒られないような部分。その更に外側には何の目的もない人も集まって時間を過ごせるような、ゆるやかに区分された音量の違いといいますか、そういうのがある図書館だと実際図書館にあまり行かない私も足は向くのかなと。複合施設のメリットであって、コンサートがあった後に、それに関する作曲家の資料を探してみようかとか、そういうのにもつながるのではないかと思いますので、共有できるロビーとか、当然イメージできるとは思うので、その中で言うならば区分けがなされて、静かだけでない図書館があったら私は良いなと思っています。

（委員）

その後のところにも出てくる話かと思いましたが、市民参加型図書館っていう言い方があるようです。南足柄市にもそういう言葉が載っていましたが、他にもそういう図書館があるかと思います。伊万里みたいな図書館もそうですよね。市民参加型図書館という言い方をしている図書館があって、すごくいいなと思いました。というのは、市民の活動はそこで形になっていくわけです。関わる人が増えるというのは、図書館を利用する人が多くなるということで、図書館は活気づきますし、利用者は増えるという。そういう意味でいろいろ関わる人が出てくるのはいいなと思いました。それはボランティアの中でも、その他、読み聞かせだけではなく、本の修理をする人ということも南足柄市ではあるみたいです。いろいろな図書館整理の方も入っているみたいだし、今までは私たちは図書館ボランティアというと読み聞かせしかほとんど知らなかったのですが、いろいろな形で関われるんだなというのが分かりまして、図書館と一緒に動いていく市民たちが作り上げる図書館

というのがいいのではないかと思いました。
（花井委員長）
　福岡県の中では、結構そういうところが増えていて、図書館に市民図書館という名前を付けているところ、伊万里市民図書館。あと宮崎県の都城というところは、ボランティアさんだけではなくて、地域の本屋さんが店舗で図書館の中に事務所を持っていて、その中で作業するという。本屋さんに入ってくる本をいつも図書館の人が見られるようにしました。選書が早くできるとか、市民といっても１つの団体との関わりあいとかそういうこともして、都城も１００年位続いている図書館ですので、そういうのは伝統としてすごくあるなと思いました。南足柄市もそうだし、ここもそうなると思いますが、設計当時から市民が関わらないような図書館を作るというのは、ほとんどナンセンスと言われていて、実際にはほぼ設計者が決まった段階で、設計者の方から市民の声を聴きたいというような、これは確実にそういう流れになっているので、そうなった時にはいろいろな人が参加できるような窓口を作っていければいいかなと思っています。貴重なご意見ありがとうございます。
（委員）
　ふと思ったことですが、図書館の階にもし１階部分かどこか使うときに、その部分にオープンスペースみたいなものを少し作っておいて、それを部屋割出来るようにしていて、大きく使ってイベントをする。図書館関係のイベントをするとき、その部屋を利用する。利用するイベントがないときは子どもたちのそういうおしゃべりしながら本を読んだり。図書館と並びにあれば、それが可能だと思います。その横にオープンスペース的なものを作って、図書館で何かイベントをするときはその部屋を利用する。また工作みたいなそういう時には、いくつかの部屋に分かれて小さなスペースでもいろいろなことが出来るというような部屋があっても良いかなと思いました。そこはイベントがないときは自由にオープンスペースですから、本を借りてきて小さなお子さんがそこで遊びながら見れるというような形をとっても良いかなと。そしてその横に飲食ができれば、私自身は本当は飲食しながら本を読むというのは良いことではないと思いますが。本を汚すことになりますから。だからそこは貸し出す方で、きちっとした形をとって。ただお子さんが小さい場合は飲食がどうしても欲しくなります。長くいるときには。そういう階の中に親子でくつろげるような場所を一部屋作れば、少々うるさくてもそれはそこで可能かなと思いました。
（花井委員長）
　小布施の図書館見ていただきましたけれど、飲食とここのところが一緒になって、おしゃべりは出来る図書館でしたので、おっしゃったようなことがオープン当時から出来ていて、たくさんの親子連れがいらっしゃいまして、飲食するコーナーは子どもたちがくつろぐ横ですので、離乳食を食べさせているお母さんとか、そこで逆にお弁当食べている子どもたちもいますけど、そこに流れが少しできれば私の経験上はそこは面白かったかなと思っています。委員はいかがでしょうか。
（委員）
　いま話を聞かせて頂いて、ほとんど不得手です。利用率とかそういうものを上げるためには、ＩＴ化も進めていかなければならないかなと思いますが、私もよく分からないのは

図書を購入しますよね。それで購入したものを図書館機能として貸し出しするときに無料というのはできるのですか。貸し出す度にお金がかかるとどうかなというのが１点ありました。今無料だと聞いて、それだったらＩＴ化も進めていくべきかなと思っています。そして先日内藤委員が言っていたデータ化して、図書の書架についてもある程度データ化して、どういうものがあるのかというのを同時に進めていくためには、避けて通る事が出来ないものではないかなと思います。それともう１つは前回私も言ったんですけど、図書館に来てゆっくり読みたい方と親子連れで来る方いるわけですよね。そのあたりのこともお話を聞いているとよく考えられていて、別に設けるようなお話も出ていましたが、そんなことでやって頂くとありがたいかなと思いました。

（花井委員長）

資料は確実に図書館法１７条にあります図書館の資料を貸し出すときは無料原則というのがありますので、これは絶対だと思います。資料だけですので、後が無料で無くても、別問題になりますけども、それは確実にできると思います。

（委員）

話がもうちょっと違うところにいってしまうかもしれませんが、学校の図書館の事で今新しい図書館は市内にできますが、利用するということは、図書館に近いところに住んでいると利用しやすいですが、子どもで言えば１人というところ。ところが熱海は１館しかないので、多賀とか伊豆山の方には子どもたちは当然１人では市内の図書館には行かれません。そのときに学校図書館の充実が非常に大切だと思います。ですが学校の図書館と今熱海市立図書館の連携がほとんどないんじゃないかと思います。例えばネット上でつながっているとか、パソコンでどの本がということが、学校で全然なっていないのではないかと思われますが、その辺の学校関係の図書室と熱海の図書館の連携がとても大切なことになってくると思います。そうでないと、同じ市民でありながら、利用者間隔が開いてしまって、そこは心配なところで、ブックバスはありますがそれとは別に図書館、学校の図書室もあるわけで、子どもたちの面から考えると、学校の図書室と連携を強くするべきだと思います。なのでそれを付け加えていきたいと思います。他に例えば、市民と図書館と関わりで言うと、静岡の方に教えていただいたのですが、ふるさと図書館基金があるとか、ベストセラー本の寄付、南足柄市の図書館のホームページを見たらば、本を寄付してくださいっていうのが載っていました。例えば借りたい人がリストにいっぱいいても、手持ちのある方、寄付してくださいっていうのがありましたが、どんどん市民に投げかけていっていいと思います。でないと図書館がすごく人気出たのは、１０冊とかたくさん買わなければいけなくって、それがあまり意味がないと。図書館というのはいろんな本があるべきで、貸本屋ではないので、１つの人気のある本をばっかりたくさん揃えるというよりも普通の人が借りないような本を持ってくるべき、重要なところもあると思うので、例えばキープしてもらうのも大事だなと思いました。それからこれは面白いなと思ったのですが、１つの雑誌を個人の会社とかＮＰＯで、会で年間分寄付して、雑誌に名前を載せるっていうのも書いてありました。そんなことできるんだな、図書館の予算の関係もあるんでしょうから、いろいろな面で市民が協力していったりできることが、手伝うことが出来るんだなと知ったので、そういうところもどこかに頭に入れて運営に関われるといいなと思いま

した。
（花井委員長）
　スポンサー制度は今いろいろな図書館で導入していて、すごくいい制度だなと、図書館予算だけではやりくりできないことを、地域の企業さん、本屋さん、団体さんたちが買ってくれるとか、そういうのも言っていらっしゃるみたいですね。今おっしゃっていたことに本当に賛同で寄付というのをどんどんして、特に地域の方が持っていらっしゃる本っていうのは、地域の財産だと思います。これがあるないも必要ですけども、どこかに売り飛ばそうとする人がいたら、図書館に持ってきて、いる本頂けませんかというぐらいの勢いでいいと思っています。そこは逆にひねってやったのが武雄市なんですよね。武雄市はＴＳＵＴＡＹＡさんがやっていて、ＴＳＵＴＡＹＡさんが目を付けたところは、ベストセラーです。ベストセラーが予約が殺到するわけですよね。図書館ですから。複本をもう１冊ぐらい、２冊出したとしてもそれは間に合わないわけです。すごく人気の本は。その時に計算したら、１番最後に予約した人は、数年後にしか借りれないっていう。でもその時に買う本と貸し出す本を並べたら、読みたい人は買っていった。そして待てる人は待つという、利用するお客様がチョイスしたというところが武雄の技だなと言われているのですが、良い悪いは別にしても、１つの技だなと言われていて。先程の１７条ではないですけど、本を貸し出すときは料金を取ってはいけないけど、貸し出すという微妙な線で武雄市はクリアしたのかなと思って、そういうのもどこか含めながら、みなさん頭の中にあるといいかないうことで、寄付は特に熱海は文豪の地ですし、いろいろな方の古い書物などとってあるかもしれないので、そういうのは本当に地域の資料だけでなく、情報発信とか観光資源になったりしますので、ぜひとっておいて、できれば図書館に寄付していただければ嬉しいなと思っています。郷土資料をすごく大事にしているところで寄付なんかもらうというのは、東京の小平市の図書館が２階のフロアが全部郷土誌なんですね。そこには本当に寄付から購入からいろいろやっていて、ベテランの司書さんがいて定年で終わられても再任用でそこにいてもらってるぐらいやられているので、そういうことも含めて寄付っていうのを熱海市で回っていくと財産になるかなと思っています。
　施設整備の総括みたいな形で、基本的にはホール・図書館、そしてそれに類するものの意見を出していただきましたが、今日お配りした資料の中の資料１というものに、５つのカテゴライズの視点というの用意していただいて、これについてもう少し先程委員から人と人との交流というような形で出てましたけれど、そういうものがどういうふうに出てきたら、この５つの施設、ここセパレートになっていますけど、この施設がどういうふうにあいまって上手くいくと、１つの複合という中で、もっともっとこれ以上のサービスをできるのかなっていうのを皆さんからご意見を聞かせていただければなと思います。特に運営ということで少しお話を伺いたいんですけど、施設はこうだからああだから出てきたと思いますので、そのあったとしてホールがあった、図書館があった、会議室があったっていうときに運営をどのように考えていくのがいいのか。今までは直営なのか、ＰＦＩなのか、指定管理なのか、という話は議論させてもらいましたけど、今回はそうではなくって、どういうスタッフがそこにいたらいい、どういう時間で、先程時間ありましたけど、運営のソフトの中でどういうふうに考えていったら、この５つの施設というカテゴリーがもっ

と楽しくなるのかなというのを、少しみなさんのご意見を聞かせていただきたいなと思っています。ちなみに資料２の方は熱海の事例と他館の事例も出していただいていますので、これも一緒に見ていただきながら、資料３は別の、この後触れたいと思いますが、資料１と資料２を目を通していただきながら今後の事を考えて頂きながら、特に複合施設のメリットとか、先程も委員が言ったように市民とボランティアの協働性とか専門のスタッフ、さっき出ているようなことだと思いますが、少し施設の方も考えながら意見いただければと思います。

（委員）

施設の中にボランティアが使える部屋があるともっといいなと思いましたが。それと別ですが、今の運営ということに関して、直営とか民間とかいうことを超えたお話ということでしたが、とても直営とか民間というお話も今までしていなかったと思うので、ちょっとだけしていただきたいと思います。どうしても直営と民間というお話になると、平成の２３年の総務大臣が公共の図書館は学校図書館が指定管理という言葉を使っていますが、民間には馴染まないと言っています。行政が直営でスタッフを配置して運営すべきだという発言をなさっています。熱海市でも新図書館構想というのが一番最初のときにみなさんに配られていましたが、その中に民間か直営か検討したものがあってこれ良くできています。それに反対する直営の方がいいって、いろいろな方がおっしゃっていますので、そこの部分をよく検討してみないで、ＰＦＩの運営に任せるということは、どうもすんなりそっちにはいかれないっていう気持ちも強く持っています。その辺をどんなふうに皆さんで思うかなと思っていますが、私の会とか私たちは直営でっていうこと。というのは民間にすると、こんなに心配な事があるというのを特定のものなんですが、それをクリアできなければ、到底民間でお願いしますとはなかなか言えないと思っています。先程委員がおっしゃったように、なかなかお金はかかるからと、先程花井委員長はおっしゃってくださいましたが、図書館法で図書館は運営されています。図書館法の１７条や花井委員長がおっしゃったとおり、無料で本を貸すことになっていますので、利潤をあげる事が出来ない図書館、そういうふうに言われています。他のところがあるとおっしゃっていましたが、現在熱海市では他の部分はないというか、他にとってるところがないので、全部ただで借りていますので、そこを民間にするということは民間がどうやって利益を上げていくのかというところが心配がいくので、儲かる要素がない図書館を民営化するということに対して、つまりはよく言われているのが、人件費を下げるしかないだろうと聞いています。そうすると司書が欲しいというときに、パートとか短い時間とかもしくは１年更新しかできない人たちが増えると身分が不安定で、とてもベテランになる要素がないと思っています。それがとても心配です。せっかくできる図書館ですから、しっかり資格を持った、長く勤められて、市民のためになるべき、ベテランの図書館に育っていってほしいと思うので、そこを叶えることもあるんだと。もう１つは、以前内藤委員がおっしゃっていましたが、熱海には博物館がないですよね。図書館の方が本当は博物館にいくべきものが、図書館が預かっている状態だというふうに話していました。いま現在、博物館ができるという予定がないわけで、このまま図書館が貴重な郷土資料とか、希少価値のあるものを預け続けることになると、さらに民間が運営するということがまたさらに心配で、武雄も確かそうでし

たよね。郷土資料室にあったものが全部なくなって、ＴＳＵＴＡＹＡの方がレンタルショップのものを置くようになってしまって、どっかいってしまったと記事も載っていますが。それぐらい大切に思っている人たちが、市民とか行政だとすれば、民間はそれよりも利益を上げなければいけないところに運営が自由にいくわけですと、郷土資料にどれだけ愛着があるのかなというのもありますし、１００年かかって集めたものがどこかいってしまうんではないかという心配もありますし、それをもっともっと大事にしていくためには、熱海に行政の方でしっかりした秘策というか、管理していくべきだと思うので、そうなると直営で運営していくのが一番いいのではないかと思っていますので、いろいろな運営の仕方あるでしょうが、今言ったような言葉でも、ＰＦＩでなく直営でお願いしたい。それが今のところは１番いいんではないかなと私は思っています。

（花井委員長）

ありがとうございます。直営なのか、ＰＦＩなのか、指定管理なのか、話していただきましたけど、後半に話していただいた司書の資質とか郷土資料の話とかを、今日は議論してもらって、だから直営がいいんだとか、そう最終的にいくと思いますが、何をしたい、何をどんな運営がここに必要なんだろうということをまずは洗い出してもらって、これは行政は無理なんじゃないかとか、これは行政ならできるよねというのは、その時に決まるものだと思います。ですので今は後半おっしゃったようなことを皆さんの中から、例えばホールの人が足りないとか、図書館の人がいくのか、まあ無理かもしれませんが、ちょっと時期的なものを、こういうふうにやりくりしたらどうでしょうとか。例えば資料館が無ければ、図書館の資料室を少し博物館機能において、じゃあ学芸員の人に来てもらいましょうかとか。これが１つの運営のソフトの部分だと思います。そこを今日は数十分間かけて話していただいたうえで、今日はどこまでいくか分かりませんけども、最終的に民営なのかどうか計画書に落とし込むのか、落とし込まないのか、その手前でやめるのかというとこで、閉めるのかなと私は感じています。

（委員）

いま委員が私が言ったこととちょっと違ったので、私は電子化するにあたって、出版社から買いますよね。それを市民の人が図書として借りるというのは無料なの、それを借りたときにいちいちそちらの出版社の方にお金がかかるんですか、あんまりかかっちゃうと維持していくのに大変だという意味で聞いたんです。元々図書館で市民からは無料、それは私も分かる。電子化することによって費用が増えることがどうなのですかということで聞いたわけです。

（花井委員長）

その観点に立って、みなさんいかがでしょうか。

（委員）

いま委員の意見のところで一部、前にも話したことがあると思いますが、図書館って１００年前からの所蔵のものとかありますね。熱海には地域資料とか発掘された物とかそれから温泉の資料とかたくさんございます。それを今回ホール、観光会館みたいなものを作るにあたって、郷土資料、熱海資料館みたいなものに一堂に会して、温泉のものでも、蔵書でも、有名な方からいただいたもの、そういうものを１つの部屋に誘致するような形に

すると、今度それが宿泊の方たちが、熱海ってあんまり見に行くところがないので、その方たちの観光会館みたいなものが出来たときに、施設が出来たときに、そこに行けば熱海の温泉資料とかいろいろな１００年前からの蔵書だとかあるんですよというような形もされるのではないかなと思います。あちこちに分散して温泉資料館をあそこに作る、どれを作るということではなく、一堂に会すということも、そこに行けばすべてが熱海の中でそれも発掘されたいろいろなものも見られるということで、それも１つの方法ではないかなと思います。それをやるにあたっては、やっぱり行政とかいろいろ運営とかあると思いますけど、私はそういうのは行政がやると思っています。指定管理を途中からするにしても、とりあえず行政でしっかりした形でそれをやる方法がいいのではないかと思います。ホールやなんかに関しましても、熱海は文化文化って言う割には文化がない。今回何回も申し上げます通り、熱海市民の習い事している方は山ほどいます。子どもたちから大人まで。ホールが欲しいということをずっと念頭に置いておりましたけど、現在でも２００人くらい入ればいいとか、もしくは１０００人ぐらいの方入ればいいというのを今でも聞きます。ですけど２００人ぐらいのものを作るなら作らない方がいいと思います。最低の線でも５００人くらいが入れるような建物のホールやなんかを作る方がいいと思います。それに対していろいろな方法を今まで申し上げてたんですけど、ＰＦＩにしても行政がやるにしても、これから本体のものがきちんと形が出てきて、そしてどういう施設にする、どういう設備を取ると出てきたときに、ある程度金額がやっと出て来ると思います。それに関して私たちはＰＦＩだとこういう利点もある、だけどこういう欠点もある、それから行政もやればこういう欠点もある、こういう結果を生むということも、前にちらっと聞きましたけど、はっきりとホールの大きさとか、それから展示場のスペースの大きさとか、ある程度申し上げていますけど、図書館の大きさとか、それからそういう設備に対して細かく出来たときに初めて金額がきちっと出せれた方が、一般市民の方にもまた私達にも分かりやすいのではないかと思います。ある程度の金額が出たときに、そこからスタートとして、こういう方法があり、また少子化において若い人たちは、金額があまり大きくなってしまっては不安も大変聞きますので、そういうことがきちっと答えが出ると思います。だから慌てて行政がっていうこともＰＦＩにしてもいろいろな形があるでしょうけれど、まず建物の設備がどう、大きさがどうというのを見極めたうえで、それでどれくらいの金額がでるかというのを私は先に知りたいと思います。それには箱の中に何が入る、きちっとしたどういう設備がほしいということで、ある程度の金額は出るのではないかと思います。それによって支払方法とか運営方法を考えるというのも１つの手ではないかなと思います。

（花井委員長）

複合施設というのはほぼ決まりですので、複合施設のメリットの中で、全てが図書館、ホールとあっても、融合できるところがどこかないかとか、会議室もそうだと思います。先程おっしゃったようにフリースペースでイベントが出来るようになったりとか、そういう少し創造性も含めてなんですけども、ご意見いただければ嬉しいと思います。

（委員）

施設の在り方といたしまして、いわゆるＰＦＩで、民間の資金を使って、そして施設を作って運営していくという形になりますと、どうしても利益追求という形の中で、非常に

市民の皆さん、団体として使いにくい部分が出てくるのではないかなと。使用料がどんどん跳ね上がるという形では非常に困ります。民間と行政とこれは連携した形の中で、検証委員会作りながら、行政としての支援をしていく、支援をしていかなければこれだけの複合施設を作ろうとした場合は、とても無理ではないかなと感じます。先程図書館の話もありましたが、花井委員長がいろいろと図書館の機能とか事業の話で、成功例が多々あったと思います。この事業は好評を博している。こういうものを取り集めて熱海に相応しいものが何かというものがきっと出てくると思います。そういうものを入れながら、ＩＣＴをうまく活用して、情報発信をしていくことによって市民の皆様あるいは観光客の皆様も複合施設としての使い勝手の部分で、ぜひ熱海でやってみたいというふうに出てくると思います。そういう形で複合施設と上手に連携しながら相乗効果をあげたいということを考えて、管理・運営・建設していった方がいいと思います。

（花井委員長）

今の補足ですが、ＰＦＩとなると必ずモニタリングという制度をしますので、そこがお金がまま跳ね上がってやっていたら、契約違反になりますので、行政、民間含めて第三者の機能とか、そういうのを含めたモニタリングが入りますので、ある程度そうしなければいけないと思いました。他にいかがでしょうか。もっと機能的なもの。他に学校の外とか、観光、商業のものをベースのものとか。例えば先程おっしゃったフリースペースで企業さんたちが何かやるためにこういうものが必要だったりしないかとか。奈良県の県立図書館なんかは入口で企業説明会、地域の企業のパネルを出してそこに企業の方たちが来て、何日間か説明したりするんですね。私たちの会社はこんな会社です、ということをしたりとか。そういうのもフリースペースで出来るかもしれませんし、図書館やホールというのを頭で固めるんではなくて、いろいろなことを想像していただいて、複合施設というところを１つ考えていただければなと思います。

（委員）

私は文化団体連合会から参っておりますので、どうしても展示とか発表の方にこだわって今まで言ってきましたが、現在でもやはり今の時点でも大きな施設はいらないという意見も多々聞きます。ですけれど、熱海市民の多くの方々が習い事しています。それは年配の方もありますけど、若い方でも。現時点で、熱海市でバレエをやっている子どもたちが小田原の市民会館などを使って発表会をしています。沼津とか。それは熱海にホールがないからですね。今回出来るということにある程度なってまいりましたので、しつこいようですけれど、熱海市民の一般の大人の方だけではなくて、私が思うには現在の子どもたちのためにも、また未来の子どもたちのためにも文化というのは芸術だけではなくって、全てのことが文化につながるわけです。文化があっていろいろな形が相乗効果で生まれてくるわけですから、その土台を未来の子どもたち、大人のためにも土台をつくるために、文化向上。ぜひとも熱海市は力を入れていただきたいです。今まで市長さんも文化文化とおっしゃっていましたけど、決してそれが身にはなっておりませんでした。失礼な言い方をすると、口先だけは文化だったけど、それに対して力を添えてくれたことはなかったです。現時点でもそうです。それで私ども文化団体連合会でなくても、それに入っていない習い事の方もいます。みなさんこういう会場見ればいい会場があるじゃないかって思うでしょ

うけど、果たしてレッスン場になるかというとならないところもあります。ですから何回も申し上げているように、ホール建設には熱海市民の大勢の方が気持ちを込めてお願いをしているわけです。それで市民ホールは私が申し上げたように、最低でも４００人。１０００人まではいらないと思います。５００人前後が最低でも入れるような会場がほしい。そして演習室は別にほしいですが、オープンスペースにも使える。結局旧文化会館、あそこの文化会館が今会議場として使われています。あれがいくつかにも分かれて使える。１つの面で使える、そういう方向でも使っていただきたいです。ですけれど先程申し上げてたように、行政がある程度絡んでないととてもやりにくい部分もあるわけですね。そして他でやって、もし高い場合には使いにくくなってしまいます。せっかく良いものが出来ても、一般の方がレッスン場とか稽古場とか、発表の場で使うときに値段が高くて使えないというのは困ります。そこは行政がちゃんと入っていてくれれば、減免という形もとれるでしょうし、市民が使うって時は少し安くして頂くという形は、取れると思います。外部の方ばかり関わってしまって、熱海市民の事を思ってくれるかなという心配はあるわけです。市民としては、せっかく良いものが出来ても高いのでは仕方がない。使えなくなるという心配をよく聞きます。金額が安く使えるということは、行政が絡んでいないと分かってもらえないと思います。ですから私は行政が少し入っててくれないと困るなというような意見で通したいです。

（委員）

前回の１月のときに、ホールの話が出たと思いますが、ホールを熱海の市民だけで使おうと思うと、人口も減ってしまうし、金額が高くなってしまうのは仕方がないと思います。ある程度規模を大きくした場合は。そうするとやっぱり他所の人から選んでいただけるような工夫を何か盛り込んでいかないと、どちらにしても大きいホールを市民に対してやろうと思えば、高い使用料になってしまいますし、それならば小さいホールを作るしかないという選択になってしまうのではないかと思います。ですので他の市から選んでいただける、もしくは全然違う層の方、外国人の方とか、他の三島であるとか小田原では困ったなと思ってるような方が、熱海をわざわざ選んでくれるようなホールを考えていかないといけないと思います。

（委員）

毎回申し上げているようですけども、ホール建設にあたって思いますのは、勿論市民だけ使うわけでなくて、熱海は観光都市ですから、例えばホテル１泊、そして観光会館、今度出来ます複合施設の中で、演劇なり歌手なり、抱き合わせにして、１泊しながらそういうのを見るとか方法いろいろとれると思います。ですから市民だけが使うわけではなくて、演劇にしてもコンサートにしても、いろいろなイベントにしても、なるたけ外に発信して、熱海でコンパクトではあるけれど、すごく設備のきちっとしたものがあるということを発信していただいて、そして商工会議所さんもおられますので、そういうホテルと抱き合わせ、１泊旅行を兼ねて、じゃあ演劇見ようか、そういう形もいろいろなことがとれると思います。これは他の沼津にしても小田原にしても１泊でというのはないです。ただコンサートがやっている。でもみんな見に行ってます。ですから熱海でやっても三島やなんかの方も来るでしょうから、金額的なものを考えたときには、熱海市民だけが使っているので

は補えないと思います。なるべく外に発信して、とにかくいい施設があるんだよということになるために、ある程度の人数が入るところ。そしてコンパクトではあるけれど、設備がものすごいしっかりしているというようなことを前面に打ち出せるような場所を作って頂いて、そして外部からなるべく、それが結局収入につながっていくと思うの、運営の方の。ですからそういう形をとるのも１つの方法ではないかなと思います。市民だけが使うということを考えないで、外部の方にもぜひとも使っていただくというので、私はそう出来たらいいなと思っています。

（花井委員長）

具体的にもう少し何かこれだったらっていうのはありますか。

（委員）

たまたまテレビで見たのが、東北の都市だったと思いますが、バレーボールコートでした。。国際試合ばりの設備、床であるとか広さに関しても、そういうものを誘致したら全国から選んでいただけるようなという事例がありました。だから音楽といっても、すごくジャズであるとかクラシックであるとか、ちょっと市民の方で調べて、どんなのをするのか調査しないといけないと思いますが、１つ何かのジャンルに特化したものを選定して、それで人数もそれに１番良いというか、ふさわしい人数を選ぶというのもいいと思います。

（委員）

今の関連なんですけども、ホール契約のメニューをというわけではなくて、例えばホールで言えば、指定する側、劇団だとか楽団だとか、あと展示ものであればコネクションとか、そういうところと契約のようなものが出来て、定期的に巡回公演だとか出来るような形で、見に行く市民ではなくて、見るべき対象みたいなものを、あらかじめ確保しておくような工夫も出来るものなのかどうかというところから分からないですが、確か文学座がやっているところがあります。地方都市のホールとの年間契約みたいなもの。そういうので運営だけでなくて出演する側なんかでも、プロの視点を取り込むようなこともできるかもしれませんし、それについてくるお客様というのも獲得できるかなと、そういう工夫を運営の中でできればいいと思います。もう１つ、施設の面で前々の会議で申し上げましたけども、あの場所にはいきいきプラザと福祉センターが目の前にありますので、資料１の創作、練習、発表の施設、それから会議学習の為の施設、この辺は共有できるところ少なからずあると思うので、そういうのもぜひ計画の中には盛り込んでいただきたいということと、起雲閣の音楽サロンを新しいところにできたらどういうふうにするのかというのも、ぜひ意識した計画にしていただければと思っています。

（花井委員長）

美術館ではなくて、ホールの経営も、市民団体が企画してやっているところもありますし、そんなにたくさん知らないですが、愛知県西尾市の文化ホールなんかは市民の団体さんたちが一生懸命お客さんが来るようなネタを作ってみるとか、吉本興行なんかは、そういう年間のプランニングで契約することもあったりするので、おっしゃられているようなものも模索するのもありなんだろうなと思います。ただそこを全部委託としてしまうと、自分たちも分からないので、何が知りたいか何に感動したいかっていうのが、市民の中から湧き上がってきてそこがさっきおっしゃったようなものとつながっていく、そういうの

もありかなと思いました。他にご意見はないでしょうか。
（委員）
　運営の件で、直営なのかＰＦＩなのかというような話はもうこの会議が始まってから、ずっと出てきた話だと思います。市民参加型図書館というような話も今出てまいりましたが、斎藤健さんという方の本で『転落の歴史に何を見るか』というのがあって、「日常の自転は案に思考停止を導き、やがて組織の活動は不活発になる」という言葉がありまして、直営で直営でということで考えていくと、一般的に役所の方を前に大変失礼なんですが、お役所仕事と言われてしまうような域からなかなか出ることのできない苦しさがあるのかなと思います。それは市役所の組織の中で働いていらっしゃる職員の方たちは、その中で配置換え等もあるでしょうし、みればなかなか腰を据えて、生涯を通じて、そのことを担当するということはされないということはあると思いますので、ともすれば市民参加型というのを、本当に実現していくためには、やはり専門知識だったり、運営方法について、かなり先進的な考えを持った人たちが間に入るということも、１つなのではないかなと思います。ただ司書の方たちを育てて守る。そういう専門職の方、当然ながら専門職の方が配置されるわけですから、そういう方たちのことを考えると、人事制度だったり、給料の関係の問題で退職せざるを得ないというようなことが民間企業だと起こり得るのかなと。そうなってくると直営でそういった職業の方たちを守っていくということも１つとして、大切な事なのかなと考えております。先週末、学生時代の友人が熱海に遊びに来まして１泊で、糸川桜と梅園とそのあと玄岳でミカン狩り等をしまして、翌日は見番で警察所長のバンド等も見させていただきながら、ＭＯＡ美術館ですとか、伊豆山の走り湯ですとか、天然記念物のバクチの木とか、楠の木とかいろいろ案内しました。熱海って、こんなに東京から近くて見る所がこんなにたくさんあるのかということで大変喜んでいただきました。今シティプロモーションということで、プロモーション活動、市として一生懸命取り組んでいますが、経営学から考えるとプロモーションというのは、非常に一過性になりやすいと。継続していくためには、莫大な費用がかかる。その中で今後積み上げていかないといけないなと思うのは、今言われるレプテーションマネジメントという口コミ評価ですとか、いかにファンを獲得していくのか、こういったところに関わってくるのかなと。今後建設される新しい熱海のシンボル的な存在になる。その文化施設は外部の方からの情報も入り、また地元の人たちもそこに寄り添う事が出来るような人の交流が生まれるような場である必要があると思います。必ずそこには観光の情報を求めてくる人の流れもあるでしょうし、文化的な資料とかも目を通してみたいというような方たちも集まってくると思います。また花井委員長おっしゃられたように、地元企業の紹介の場であっても良いと思います。こういったものは市民参加型というのを本当に具現化していくのであるとすると、いろいろな団体が関わっていくことがやはり大切になってくると思いますので、当然ＰＦＩという形、私も勉強不足で掴みどころがないですけど、ある程度役所の入札なんかも普段仕事の中でやっていると、仕様書というものがはっきりと明記されていて、品質というものがかなり求められてくると思います。それがもしサービスとしての入札になるのであれば、そのあたりの品質というのを管理して文書として表していく中で、品質を保ちつつ運営していくという方法もあるのではないかなと考えます。ただ投資を呼び込んで行うわけですか

ら、やはり利回りとか投資をされる方というのは気になるところだと思います。ただ何にもあがりがない中でお金を投じて、社会貢献にすごく熱心な方であればそれで満足されるでしょうけど、おそらくお金の動きとかを考えると、やはり利回りみたいなところが気になるところだと思うので、いかに利潤を追求していくかということを、民間企業が運営に入るとすると考えなければならない。そこを市がコミットしていって品質を守っていくのか。ＰＦＩの場合ですけど、直営の場合は、お役所仕事的なところから脱皮して、プレースルーしてよりこう民間に近いような感覚で図書館に人が集まるような場所を作れるかというところが非常にキーになるんではないかと思います。

（委員）

この中で施設に関しては、今までいろいろなご意見伺って、施設の種類が出ていますので、あまりこういうもの、こういうものというのは自分の中ではあまりないですが、敷地を考えますと、複合施設でいろいろなものをたくさん入れてしまうと、本当に巨大になって、それを市のお金で建設業投じて、３０年間施設をいかすというとそれの４倍かかると勉強をしましたので、１０億円の施設が出来る場合は４０億円かかる、２０億円の施設が出来る場合は８０億円かかると、そういう認識で我々市民はいなければいけない。その中で複合施設ということで、先に進むのであれば、先程図書館でも紙とデジタルの融合というお話をしていましたけど、融合という言葉はキーワードになるのではないかなと思っています。ですから使い回しというのはすごく雑なイメージになりますけども、融合しつつ、先程の周りにいきいきプラザもあり、起雲閣もあるというお話ありましたので、熱海でコンパクトな町で中心部に複合施設に作るという事で、妄想が膨らんで巨大な施設になりかねない状況になっているんで、建てるものが発注するものとかも考えていかなければいけないと思います。後は施設に関してそれぞれのもの、当然ながら市民参加型であるのであれば、十分な経験を積んだ市民の方々を集って管理していただく。中心になって頂くようになってもいいでしょうし、問題は複合施設の１つの施設を、最終的にはトータルマネージャー誰がされるのか、それが市役所のどなたか、いわゆる指揮者、コンダクターがいて図書館の方々、専門家の方々、市民ホールの専門家の方々をまとめる方がどなたになるのかなと、漠然として私には分かりませんけどもそんなことを思いました。

（花井委員長）

総合的マネジメントされる方がどなたなのかと。私も非常に興味ありますけど、今言われているのは図書館が入っているから、ホールが入っているから、いろいろなシステムが入っているから、それぞれにリーダーがいるというよりは、全て複合施設として、スタッフも複合して、そこのトップ、要は全体の建物のトップでマネジメントするのは誰なのか。それは次の段階になってくると思いますが、そこを私がこういう場所にいるときは、必ず図書館を作るのであれば絶対設計よりも館長を決めてくださいっていうのをよくやっています。そうでないと皆さんの意見も、まとめ役もいないですし、私みたいなのが来ていますけど、結局私は去る人間ですから、残って最後まで運営をしていく。最初の５年間、１０年やっていくというのを腹をくくる人をまず決めていくというのは、先決ではないかなと思っていて、それを出来ていない官というのもたくさん見てきて、かなり痛々しい部分もあります。できたものにトップにいった人はプロセスも知りませんし、自分がやりたい

ことがあるからトップにいくわけですよね。そこが見え隠れしてしまいますので、私の要望でもありますけども、次のステップにいくのであれば、行政主導でやるのであれば、まずその人事異動をすぐに決めてトップを決める事であると思いますし、民間になるのであれば、誰が民間の方から誰が責任者でやるんだというのをすぐ決めるべきだという、それを絶対的に要望するのは市民の皆さんかなと私は思います。他にあと議論するのは１０分程度ですが、総合的に見て学校の事でもいいですが、ボランティアの世界の話でも良いですし、こういうボランティア活動している人たちがこういう複合なものになっていると使いやすくなるのではないかなというのはありますか。資料館みたいな話も私も面白いなと思いますが、資料と郷土資料みたいなのが一緒になって図書館の資料として存在している。博物館がないのはメリットだと思っています。デメリットではないと思っていて図書館に行けば何でも揃っているという価値観は私はすごく良いと思っていて、なぜならば博物館、美術館というのは研究施設です。図書館はサービスで、情報発信するところなので、できれば博物館、美術館などで研究されたものが、いつも図書館に集まって、そこが発信していく。まず発信する人は市民であって、そのあとに市外の人であってという形になれば、美術館がないというのはデメリットではないというのを前向きに考えていいのではないかなと思います。

（委員）

自分の経験からですが、私は子どものとき伊豆山に住んでいて、図書館とホールがあったとしても、正直伊豆山からは行かないと思います。そうすると、ここで複合施設として子どもの遊び場というのを踏まえて話しましたが、それも魅力のある行きたくなるようなものを併設すれば、例えば複合して図書館にも寄っていけるようなものになると思っています。自分も子どもの頃、そんなに本読んでいなかったので、うちの子どもにはうちのが連れて行って、図書館には今は結構行っていますが、そういうものを併設していただければなと思います。あとＰＦＩの話ですが、図書館に関してもホールに関しても、過去１０年以上前にもいろいろな事例とかありますので、そういうところに、当然良い面悪い面出ていると思うので、そういうのを洗いざらして、根本は市が考えて、そこでどういうＰＦＩの方向にするのか決めていけばいいと思っています。ホールの規模ですが、市外の方を連れて魅力あるという話。若干否定的な話をさせてもらいますが、そうすると元々市民が集うためにホールという話があって、だけどそれじゃ運営できないから大きな規模になっていく、そうすると運営できないと。そういう話になっていると、多くの市民の方が要望しているというのを、そのぐらいの量が必要なのかというのが、若干疑問に残りました。

（委員）

現実問題として、規模の大きさというものが話で出ていますが、例えばマリンホールにぎゅうぎゅうに詰めても、学校に詰めても入るわけですね。もっと入るときもあります。ですが、そんなもの今さらこの町の中に、４００人というのはコンパクトな方ですね。それで今までの観光会館の資料見ても、これは私は重要視されるものではないと思います。これずっと使ってない時期に入っているのがここにきています。私たちも何十年も前に知ってます。ですから観光会館の１階が満席になることは今までもいっぱいありました。演劇にしても音楽の関係にしても。また学校関係の、いくら少子化といえども、学校関係の

行事をやった時に、あの下は結構いっぱいになります。現時点で成人式も今ＭＯＡの舞台も各芸能もやっていますが、いっぱいです。その前に私が社会教育委員をやっていましたので、１０年ぐらい成人式に関わってましたが、１階席で足りなく、親御さんたちが２階で見ていただくというぐらい使っていました。それでついこの間、熱海中学校で立志式がございまして、体育館でやったわけですが、立志式も昔は観光会館でやっていました。それを立志式に出た生徒に昔は観光会館でやっていたと言ったら、そんな立派なところで、観光会館で立志式やったのって、そういう言い方をしていました。ですから観光会館というものが特別なものと思っているんです。そういうところで子どもたちに大人の方にも舞台なり音楽発表でも、全部していただくことが文化向上にも伝わると思います。他から外部から呼べない、収入に使うからって言いますけれど、やはり収入源も欲しいから外部にも声をかけた方がいいんじゃないか。市民の方たちが使うので、賄なえれば越したことはないんです。ですけれど三島の方行っても、どこのところでも稼働率というのはそんなにない訳ですね。それはみんなが三島市民、もしくは熱海市民にしても熱海市民が１年間使うわけないですから、その間を取って収入源を考えたらどうかと申し上げているんです。ただ稼働率の事を考えれば外部から呼ばなければ、やはり稼働率、収入源を賄えないと思います。子育てしている方たちは、子どもさんが小さいから観光会館というものとか、そういうホールに関して、身近に感じてないのかもしれませんが、私たちは何十年もそういうことに関わってきて、近年文化会館がなくなったり、観光会館なくなったことで、どれほどの市民が不自由をしているかということで伝えているわけです。それには最低でも４００、５００人は入れるような会場、３００人しか入れないときがあってもいいと思います。２００人しか入れないときがあっても。でもたまには５００人満席になることはあると思います。それで観光会館みたいなものいいのではないかと思います。どこのところを調べてみても、稼働率１００％なんてことありえません。少ないところ数十％、半分にもなってないです。それでも各地には全部ホールみたいなのがあるわけですね。ですから、前はアンケートを見ると１０００人がいいと、８００人入るところがいいとありますが、最低でも４００、５００人ぐらいは入るものがあった方がいいと思います。

（花井委員長）

ここに限らずいろいろな意見出していってもらって考え方とか複合に対してもやり方にしても、最終的に目標とか評価の物差しといったもの、この複合施設がどういうふうなところに目的として持っていけば集うという言葉、キーワード出ていますけど、もう少し奥に入って、どういうことをやっていって、どうなっていけば、この施設は素晴らしいというふうに評価されるのかというところに、少し皆様の方からご議論いただきたいかなと思いますが、いかがでしょうか。

（委員）

同じスペースの中で大きい施設をもし作ってしまうと、集うというところに重点が置けるのか。自分としては市民が集ってコミュニケーションをとれて、つながっていけて、お互いに勉強しあっていけるような、そんな場所が良いなと思っているので、そういう場所を広く取りたいなという気持ちがあります。

（委員）

当初から市民が集うということに市長さんもおっしゃっていましたが、集うっていう意味とまた発表するとか展示をするのとまた違うと思います。集うというのは、４００人も５００人も入るようなホールじゃなくても出来ると思います。ですが今回の複合施設に関しては、たまたまあそこの土地が空いた。町なかでいい土地があった、できれば、そこにホールを作って、市民のためにそのとき集うっていうことが入っていましたので、集うっていうのは何かなってみなさん思ってしまったんですね。ですけど最終的このホールを作るにあたって、この複合施設を作るにあたっては図書館の移動、ホールそれから展示会場の不足ということで展示会場。もし会議場が出来ればということもありますけれど、そういうところも目的だったと思います。集うっていうのはもっと簡略に出来ると思います。身近な事から始められる。ただホールとかっていいますと、集うというよりも、もちろん幼稚園生たちがどこかで発表するとき昔は観光会館で発表会やりました。小学校の音楽発表会もみんな観光会館でやりました、みんなないからこそ、体育館とかマリンホールとか使っているわけですから、そういう面で集うということを考えれば、そういう施設がきちっとあれば、無理して音響のない、設備も何もないところに、子どもたちに発表会やらせることもなく観光会館の立派なところで小さなうちから、そういうものに馴染ませることもできるわけですね。そして現時点、生きてられる方たちが、みんなやっていることも、そこに集まって久しぶりに会う方もあるわけですから、必然的に集うという形になってくると思います。たまたま会った、違う教室で会うことはないけれど、この発表の部分において、たまたま会ったっていう。それも１つの集うっていうことになると思います。ですから、集うっていう簡略な簡単な名目で思いたくないです。きちっとした形で、このホール建設に関しては臨んでいただきたいと思います。

（花井委員長）

例えば、そのホールとか図書館というのは、例えば図書館だと何人くらい入館者数があればいいなとか、蔵書としてもこれくらいかなとか、ホールとしては市民の利用が５０％以上じゃないととか。少し具体的な目標値みたいなものがあって、先程の話と関連するかもしれませんが、だから後の５０％を外部でインフォメーションしてやろうかとか。何か相談的ではない少し地についたような理想論といいますか、そういうものを皆さんの中で少し聞かせていただければ、ものさし的なものになるんではないかなと思います。

（委員）

まず第一にお借りするときの金額的なものもあります。大きな問題になると思います。小さな団体では財政的にできないという場合も出てくると思います。それは市の方でも考えていきたい。ですけれど学校行事、幼稚園行事も、市から発信を多大にして、例えば町内会でもいいです。全てのところに大きく発信をして使ってもらいたいということを、１年２年３年、茅野市の時も１０年経って、やっと地盤につきましたということを館長さんがおっしゃってました。１年２年ではまだまだ使う方たちのって、１０年かかって今やっと地盤が築いたことも聞きました。ですから、熱海市も１年２年、借り手が無かったら、そこからさらにまた行政の方で発信をして、使ってほしいということ、学校、幼稚園いろいろなところに発信すると良いと思います。そしてそれを地盤として１年２年経っていくうちにだんだん使用率も高くなるんではないかと。とにかく町の方に使っていただくには

町の方に知って頂かなければならないわけです。これぐらいの人数でできますよと、これぐらいの金額でということ。ですからそれを市の方でしっかりと発信して、１年や２年でほらやっぱり作ったけど借り手がないじゃないかということではないと思います。茅野市のあの立派なところで１０年かかったって、定着するには１０年かかった。それでも稼働率は５０、６０％あればということでしたので、熱海市の場合も、ある程度年数をかけてやってくという考えでいないと、１年や２年でほらということではないと思います。それにはとにかく行政の方で、全てあらゆることに関して発信して使っていただく、形をとった方がいいと思います。

（花井委員長）

対抗するわけではないですが、私の要望としては、そこは行政に頼るのではなくて、市民の方、特にホールであれば音楽をされている方々が自分が企画して使って楽しかったよというのを伝えていくというのを、今までやってらっしゃったと思います。観光会館が賑やかだったということもあると思いますが、行政が行政がというよりは使っている人たち、またはこれから使ったらいいよという人たちがネットワークみたいなものを持っていて、使えるホール、５０％よりも６０％にしましょうよというのが、だんだん肌で感じてくるのが１０年かも知れませんが、特にそういうことを念頭に私の委員長をする要望としてやっていただけると、行政負担も減ると思いますし、市民と一緒に作っていくというふうになるのかなと感じます。

（委員）

行政行政と申しましたけど、市民参加ということも加えますと、先程のホールマネージャーですか、そういう下で働くスタッフが重要視されると思います。各分野に長けた方をぜひともホールマネジャーの他にそういうスタッフみたいな方たち、どういう動きが出来るかという。全てが音楽関係、いろいろなことに通じる方がそのスタッフの中にぜひとも入って頂いて、運営の中に携わっていただきたいと思います。ですから行政プラス市民参加。その参加の中には、そういうレベルの高い、いろいろなマネジメントにしても、プランを立てるにしても、ある程度しっかりした方が何人かは欲しいのではないかなと思います。

（花井委員長）

他にはないでしょうか。目標みたいなものでもいいですが。

（委員）

ホールに関して、やっぱり発表の場と考えてしまうと、例えば練習を何回も何回もして発表は１回ですよね。そうすると、どれくらいを今熱海市の中に文化的な活動をされている方がいて、その規模がどれくらいなのか分からないですが、やはり発表というところに重きを置いてしまうと、回数が減ってきてしまうと思います。稼働率はそれよりも下がってしまいますので、どういうふうに考えたらいいのかなというのをすごく今困ったなという感じで思いました。

（花井委員長）

稼働率があげればそれなりに安く使えるわけですから、それはいろいろな工夫はあるかなと思いますが。

（委員）
　レッスンをたくさんして発表は１回というのは常識です。当たり前の事です。私たち書道にしても１００枚、３００枚書いて、その中で１枚出すだけです。音楽の発表にしても、舞台だってそうですね。何千回というものを練習して、そしてその発表のときは１週間。例えば１か月ある場合もあるかもしれませんけど、１日の場合、２日の場合もあるわけです。その土台となるそのもののレッスンが長くても発表する日にちが、これだけというのは違うと思います。たくさん練習して発表する。それは本当に当たり前のことです。レッスンなしで発表にしても、何かにつけてもできることはないですね。学校の音楽発表会、子どもたちのでも、相当練習して発表会するわけですから。ですから発表が少ないからって言って、稼働率というところにつなげるのはまたこれちょっと違うのではないかなと思います。
（花井委員長）
　他にどうでしょうか。いろいろとこれも伝え出すといろいろな意見出てくると思いますが。目標にしても、人数にするのか、パーセントにするのか、細かい運営にするのか、出てくると思いますが、何かしら市民が集うっていう１つの理念のようなものが出ておりますので、そこに向かって図書館なりホールなり会議室なり含めて、先程の集うということありましたけれど、１人２人３人、人が増えれば集うということになりますし、それが１つのショーの発表であっても、何の目的がなくっても、人が来ることで集う。そこにあるのは何かをしたいというものだと思います。何がしたいかを複合施設の中で皆さんと一緒にあと１回ですけども考えていかなければ、最後の詰めとして、何がしたいのか、市民として何がしたいのかを、そこに私みたいな外からの人間も来ていますし、いろいろな人が見たくなってしまうような複合施設なんだろうなと今日の時点では想像しました。時間も迫ってまいりましたので、もう少し駐車場やインフラについて、事務局の方から駐車場の舗道についてのご説明していただいければと思います。
（事務局）
　資料の３をご覧ください。こちらは検討委員会の中でも意見がいろいろありました通り、熱海フォーラム整備事業建設予定地については、規模も限られていますので、市役所敷地と一体で整備をしていくという方針でございます。ここにある立体駐車場計画地と書いてございますところには来年度予算、今予算計上していますが、おおむね１２０台の立体駐車場を整備する予定でおります。一応完成としましては、来年度の予算ということですのでそのあたりはご了解ください。次に歩道につきまして、ご説明いたしますと仮に立体駐車場をメインに使っていただくとなると、県道からずっと歩いていただいて、横断歩道をわたって頂き、今度市道の温泉道路水口線、こちらをメインの通路として使っていただくと思われますので、それを考えますと、現在歩道が狭い部分もございます。こちらは整備させていただきまして、熱海フォーラム建設予定地につきましては、駐車帯であるとか、そういう整備も含めて、こちらは基本的に３ｍ、県道側は２ｍというふうな形で拡幅を今考えております。あと一部訂正があるんですけども、左上の④歩道幅２ｍと書いてあるところですが、この拡幅幅が今１.５ｍとなっておりますけども、０.５ｍの間違いですので訂正させていただきます。下の案はイメージ図ですので、この形でやりますということでは

ございませんが、イメージとしてはこういったものを市役所の敷地内に整備を現在考えております。

（委員）

立体駐車場の計画地だけですか。この色がついた他の２つは違う話ですか。

（事務局）

それは関係ないです。網掛けになっているところは市役所の敷地ではありません。立体駐車場の位置は花広場がございます。元消防署があった位置です。

（委員）

当初から動線ですとか、周辺のことについて、非常に意識を持っていたつもりですが、１点マックスバリューから役所の方に向かう交差点、これがなんとなく信号を渡る時に蛇行してうねっているような感覚もたれている方いらっしゃると思いますが、ここは複合施設が出来て、市のいろいろな施設がここに集約されていく中で、交差点のきれいな形に整備できないかなと思いました。ただそれにはせっかく買った敷地をカットしなければいけないと。それを道路に供用しなければならない。議論は分かれるかもしれませんが、おそらくここで新しく駐車場ができます。それからマックスバリューも３階にも店舗が出来るということで　人の流れが多いですし、しかも駐車場から新しいフォーラムには人が横断しなければならないということで、非常に安全の担保が必要になってくると思います。もう１点は県道熱海函南線から来宮駅に向かう、この県道がちょっといびつに上宿の用地がえぐっているような形なので、ここもストレートのラインにできないかなというのが、これは敷地が狭くなるということを考えると、いろいろな意見が出てきますけど、自分の仕事としている中での、知識の中ではこの交差点は危険だなというような意識があります。その点はいかがでしょうか。

（事務局）

この辺につきましては、行政の内部でもそういうご意見はございます。やはり建物を建てると、３０年、５０年のスパンで変更しようと思っても出来ません。それで今の話は、行政としても十分交差点は認識しております。方向性として、最低限の舗道整備をしていきたいという方向性は示しておりますけども、今後市民また議会も含めながら、そのあたりはしっかり議論をしていきながら、今回の複合施設、みなさんが求める到達点に近づくように取り組んでいきたいと思っています。ただ今の時点では、こういう図を示した理由としましては、委員おっしゃったように限られた３０００㎡の敷地、傾斜地、不整形地、その辺で今の交差点の線形を見直しますと、市道側から熱海市役所側から、北側に向かって、だいたい７ｍほど敷地がとられます。計画線も入ってきます。なおかつ県道側から右側の方に２ｍ、３ｍぐらい、そこでとられる可能性もあります。そうしますと今の敷地が３０００㎡、建蔽率が８０％なんですけども、不整形で建物を建てるときに、だいたい６０％の建物が限度かなという状況の中であまりそういうふうに敷地がとられすぎますと、かなり建物の建築面積が狭まってくるかと。そうなると１階の面積が減るということは、建物の使い勝手も悪くなると。そのようなプラスマイナス両面ありますので、ある程度方向性は示させてもらっていますが、しっかりテーブルに挙げて皆さんと議論しながら今後の方向性をしっかり定めていきたいと思っています。

（委員）
　これは本当に警察ですとか県の管理者、道路管理者とも関係してくる問題だと思いますが、単純に安全の担保を、なんとか歩道というのもいろいろなペースというのがあるでしょうから、それも含めて安全の担保を考えていただきたいと思います。そういったものの整備がもし可能になるとすると敷地が減りますよね。そういった場合のことも考慮しながら、この新しい敷地に先程いろいろキャパの問題が出ていましたが、市民ホールがこの敷地内に建てられる許容範囲の中で最も多く使用できる人数がどれくらいなのかなというのをお示しいただくと、１つ判断基準になると思います。ですから市民ホールといっても当然バックヤードもありますし、搬入口もありますし、あるいは客席の最後方にある茅野市で見た、防音型の、子どもさんが泣いているときに裏に入れるような、そんな施設もありますので、そういったものも含めると客席が最高で何席いるのかというのも、１つ考え方もいいんですけど、可能であれば。
（事務局）
　いま委員から、そういう質問があったのでお話させてもらいますけど、敷地が削られないで今の状況の中で建築した時に、だいたい３０００㎡のうち建蔽率６０％ですので、２０００㎡弱です。そうしますと機能性の高いホールを造りたいと。みなさんのご要望に応えていきたいと考えると、ホールだけでなくって、その他の付帯施設、練習室であったりとか控室であったりとか、バックヤードであったりとか、昔の観光会館と違ってステージを広くする。また居住性の良い椅子を設置したいということを考えると、正直言いますと４００席がやはり限度かなと。なおかつこれから敷地が削られますと、ワンフロアでやっぱり建築面積も減ってくると、それが極端に言えば３００になるかもしれませんし、３５０でいけるかどうかっていうのもこれから計算しますけど、今の状況の中で、ある程度基本性能の高いホールを作ると言ったときには、だいたい席数で言えば４００席かなという試算はしております。
（花井委員長）
　あながちずれている話ではないと思いますので、その中でまた提案する人がいれば、その中で新しい工夫をしてくるかもしれませんし、今おっしゃった２００って言われたら今まで何やってたんだって思いますけど、４００という数字は出てた話の中では、ある程度想定内だと思いますので、ここまで工夫できるように複合というのを、最後来月だけになってしまいましたけど、もっともっと計画案にいれたいなと思います。
（委員）
　いま駐車台数が１２０っていうとこですよね。これを市役所と図書館とホールとで一緒に使うことがあるっていうのを考えると、周辺道路の状況も含めて、妥当なところを検討する必要があると思います。
（花井委員長）
　ここは試算出来ている話ですよね。
（事務局）
　ある程度は想定はしています。
（花井委員長）

時間となってしまいましたが、次回は今日までのご意見を聞いたものと、想定というのものも含めまして、計画案というものをみなさんに見ていただく、そこについてご意見を最終的にみつけたいと思います。本日はありがとうございました。

（事務局）

活発なご意見いただきましてありがとうございました。次回ですけれども、最後の検討委員会になります。計画案を作っていきたいと思います。日時ですが、３月１０日火曜日午後２時からになります。会場は起雲閣、ギャラリーです。計画案につきましては、事務局の方から３月１０日以前に委員会の皆様に送付させていただくつもりでおります。最後に審議の方宜しくお願いします。本日はありがとうございました。